

菌毒

今集にも、北山に僧正遍昭とたけがりに、素性法師のまかられける事見えたり、後西院天和三年八月、秋の山といへる事をよませ給ひける、またもこんけふはもみぢを松がねにたけかりくらす秋の山ぶみ。

〔俳諧炭俵集〕女中の茸狩を見て

茸狩や鼻の先なる歌かるた

其角

〔宜禁本草〕五乾菌櫛 甘寒、地生名菌、木生名櫛。山東爲蕈、生桐柳枳椇木、藥名香蕈、白名肉蕈。皆因濕氣薰蒸而成、生山僻

處者多毒、殺人夜中光者有毒、煮不熟者有毒、煮訖照人無影者有毒、欲爛無虫者有毒、春秋者有毒、爲蛇也。過有脚氣腎氣人尤忌食、楓蕈笑不休、中蛇菌毒者以地漿解之、日用本草曰、主五臟風壅經脈動痔疾、令人昏々多睡腹微痛、

〔倭訓栞〕前編十四たけ略○中 凡そ毒なき木に生ずる耳は皆食ふべし、

〔庖厨備用倭名本草〕五櫛木耳略○中 元升向井曰、山人ノトリ來ルハ、其木シリガタシ、病人ニ尤イ

ムベシ、凡ソ木耳毒ニ犯サレタルニハ、冬瓜ノシルラツキシボリテ、其汁ヲ用テ毒ヲ解ス、

〔大和本草〕附錄一椎耳 プナノ木ニ生ズル者、形狀ハ同ケレドモ有毒、或殺人不可食、今世或生椎

耳ヲ食シテ死者アリ、無知其故者、蓋ブナノ木ニ生ズルヲ食スル歟、可擇、木耳ナド木ニヨリテ其

性良毒アルガ如シ、

〔本朝食鑑〕三耳初茸略○中

伊久知人狀似人、殺人最可擇之、又五月梅雨中濕地生、白茸、此稱都由茸、亦不足食之。

〔和漢三才圖會〕百一初茸略○中

蛇茸 似初茸而裏無刻者名蛇茸、有毒不可食、總茸類裏無文者皆有大毒、

〔重修本草綱目啓蒙〕二十葛花菜略○中

べニタケニ二品アリ、春生ズル者ハ毒ナシ略○中 秋生ズル者ハ毒アリ、食へバ吐血シテ死スルモ